



◆山崎 先輩《小川高校》

日本医療科学大学 保健医療学部

東洋大学 理工学部 センター利用

東都医療大学 ヒューマンケア学部 センター利用 他

<合格のためのポイント>

●受験に“絶対”はない

第一志望校に推薦で合格するために、高校入学のときからしっかり対策してきた。
 定期テストも上位、評定も悪くない、生徒会活動や検定などの資格取得も力を入れた。
 ところがまさかの不合格。ここから計画が狂いだし、センターリサーチでA判定だったところもまさかの不合格。
 受験に“絶対”はない。

●不合格からの逆転勝利

推薦狙いだったが、一般入試対策の勉強もしていて本当によかった。
 推薦入試不合格でもすぐに切り替えて一般入試に対応することができた。
 受験日程を組み替えるのは大変だったが、一般入試初日の西武文理大を無事に終えてからは、東都医療大からも東洋大からも合格通知が舞い込んできた。本当にうれしかった。
 最後に残った日本医療科学大は、推薦でもセンター利用でも不合格になったところ。
 「受験料のことは気にしないでいい。ダメもとで受験してみろ」という両親の言葉に後押しされて受験し、合格を手に入れた。
 最後の最後での逆転勝利は「看護師になる」という夢をあきらめないことでゲットできたと思う。

●計画的な定期テスト勉強

どんなに遅くとも2週間前には定期テスト勉強を始める。先に、覚えづらい単元や苦手な科目を学習する。
 テスト1週間前には苦手分野がひと通り終わった状態で、その復習をしつつ、残りの科目を勉強する。

●推薦と一般の二刀流ならではのむずかしさ

推薦入試は小論文と面接。一般入試は学力試験。両方ともバランスよく学習する必要がある。
 推薦入試が近づいて小論文対策ばかりやっていたら10月の模試がひどいことになってしまった。
 どちらかにかたよることないよう、学習量の調節をすることは必要。

受講講座

英語	今井のD組 スタートダッシュ 今井のC組 英語基礎力完成 難度別システム英語総合編(長文読解中心)IV
理科	入試対策センター生物 生物のまとめ 要点整理編
国語	センター現代文(70%突破)テストゼミ

